

2019年度理事長所信

一般社団法人中津川青年会議所

第65代理事長 市岡 幸一

結束強く、次代へ

～共に歩もう！希望溢れるこのまちのために～

はじめに

1955年11月、戦後復興期の間もない時代にこの地に設立された中津川青年会議所は、これまでに多くの青年有志の尽力により、移り変わる時代を見据え、住み暮らす市民・まちを想い、社会開発運動を展開してきました。その運動が現在の中津川青年会議所を確立し、このまちにおける中津川青年会議所の存在を表しています。本年で65年目を迎える中津川青年会議所のメンバー一人ひとりが、これまでの先輩諸兄の功績に敬意を、歴史を積み重ねていただいたことに感謝を表し、我々だからこそできる運動を展開して参ります。

現在の日本は情報が諸資源と同等の価値を有し、それらを中心として機能する社会へと進化し、今後も急速に発展することが予測されます。我々は地域を担う青年として未来を見据え、先輩諸兄に負けない情熱を持ち、市民のため、まちのために急速に発展する時代に対応し、運動を起こすことが重要であると考えます。

「小にして学べば荘にして為すことあり。荘にして学べば老いて衰えず。老にして学べば死して朽ちず。」

(美濃国岩村藩出身の儒学者 佐藤一斎『言志四録(げんししろく)』より)

この言葉は生涯学び続けることの大切さを説いた一文です。

40歳までという限られた時間を過ごす中で、入会年度は異なっても青年会議所という組織に在籍する以上、常に学ぶことのできる機会があります。青年会議所活動の中で入会から卒業まで多くの仲間や先輩諸兄から学ぶことは、卒業後の人生において必ず礎となると考えます。そして、その中で未来を背負い貴重な時間を費やす我々だからこそ、学び続ける姿勢を持ち、先を読む力を養い、柔軟な考えを持ちながら自身の未来に挑戦し、想いを精一杯表現し、自分に後悔しない生き方を築き上げ、価値ある団体にふさわしい人財となるべく行動に移していくことが大切であると考えます。そして自らの行動・言動が市民を動かし、まちを動かす。そうした誇りや情熱を持って青年会議所活動を務めていくことが、「明るい豊かな社会」の実現に繋がると信じます。

未来のまち中津川に向けて

中津川市の社会資本総合整備計画の中に、「リニア岐阜県駅を核とした地域づくり」とうたわれています。これは2027年リニア中央新幹線開通と共に、多くの人が中津川市を訪れることを想定して、アクセス道路や駅前広場、区画道路など公共施設の整備改善や、地域コミュニティの確保など、新たな広域交通拠点となる「岐阜県の東の玄関口として相応しいまち」を目標として作られました。そして現在、リニア中央新幹線開通に向けて多くの計画が練られ、まちの発展のため様々な取り組みが進められています。

このようにリニア岐阜県駅には様々な希望があり、未来のまちを市民一人ひとりが描くことができると考えます。そうした自らのまちに対する理想や思いこそが、これからまちが進むべき道を照らす光であると考えます。我々はその光をここに住み暮らすJAYCEEとして、市民の方々を先導し、より輝くものへと昇華させなければなりません。

光をより輝かせるためには、そこに住み暮らす市民が地域の現存する伝統や文化と共に、地域の価値を未来に向けて高めていくことも大切だと考えますが、自らの地域を自らの目線で見るとはならず、「岐阜県の東の玄関口として相応しいまち」となるために、周囲から注がれている光はどういったものなのかを考えることも大切ではないでしょうか。隣接する市町村や東濃といった地域にもリニア岐阜県駅を輝かせる光は数多く存在します。それは「歴史」や「文化」、さらには「まちを想う心」でもあると感じます。我々はこうした光を結合させ、隣接するまちのためにどう活かし、波及効果をもたらすのかといった広域的な視野と、価値観を取り入れるべきだと考えます。また、広域的な視野と価値観を持ち合わせた市民が一人でも多く存在し、手と手を取り合い、まちとして周囲からの期待に応える意志を持ち、行動を起こすことが未来の中津川を創造すると考えます。

次代を担う人財育成

現代の子どもたちを取り巻く環境は、急速な情報化や技術革新により、生活を変化させ進化しています。こうした社会的変化の影響が身近な生活も含めた社会のあらゆる領域に及んでいる中で、教育の在り方も新たな事態に直面していることは明らかであると考えます。このような将来の変化を予測することが困難な時代を前に、子どもたちは現在、そして未来に向けて自らの人生をどのように切り拓いていくのかを具体的にイメージする力が失われつつあるように感じます。

青少年期にこそ「高い志」や「大きな夢」を持ち、未来に向けて進もうとする希望と行動力を向上させることが必要であり、そうした子どもたちの「力」を、我々は地域の大人として信じ、支えていかななくてはなりません。そうした「力」を次代に向けてさらに大きくするためには、多くの機会に対して主体的に向き合って関わり合うといった体験をすることが必要であり、我々が与えていくべき重要な使命であると考えます。

子どもたちが近い将来、自らの力で人生を切り拓くことができるという実感を持つことが、次代のまちを担う人財へと成長していく一歩になると信じます。

伝統として繋ぐ「おいでん祭」

「おいでん祭」は中津川の夏の風物詩として定着して参りました。多くの来場者で埋め尽くされるレジストロ通りの歩道は、それぞれの演目から伝わる熱を吸い込み、来場者に中津川の夏を感じさせてくれます。演目に携わる人々は、「おいでん祭」で披露する期待感を持ち、多くの練習を積み重ねることで、次第にまつりに向かう熱を上げ、その熱を当日奔出することで、達成感や充実感へと変わり、「また参加したい」という想いを形成します。その思いこそが地域やふるさとに愛着を持たせ、このまちに対する郷土愛へと変化するのではないのでしょうか。今後も様々な熱をより多くの方々に感じていただくためには、幅広い世代がまつりの演目を体験し、交流をする中で「おいでん祭」通してふるさとを次代へ繋ぐ想いと、想いを知り、まつりに如何に携わっていくことができるのかといった意識を醸成すること大切であると考えます。一人でも多くの市民が「おいでん祭」に携わり、郷土愛を育むことが、中津川の伝統の一つとして「おいでん祭」が永続的に開催していくことができると考えます。

33回目を迎える「おいでん祭」も実行委員会を担う責任を自覚し、これまでの歴史に恥じぬようまつりに携わる人々を大切にし、次代へ繋げることが必要であると考えます。

中津川青年会議所のさらなる発展に向けて

我々が日頃仕事をする中で「段取り八分」という言葉を使います。これは物事を完成させるには計画が80%の割合で重要であり、「事前の準備がいかに重要か」を表した言葉です。

2018年8月度臨時総会にて、中津川青年会議所より2020年度の公益社団法人日本青年会議所東海地区協議会会長立候補、それに伴い東海地区協議会事務局主管を決意させていただきました。これにより中津川青年会議所は、2020年東海地区4県82会員会議所の中心的役割を担う存在となりうる立場となります。これまでに経験したことがない機会を組織として迎え入れることができるよう、本年度はメンバー一人ひとりがさらなる成長の機会と捉え、「段取り八分」で計画・準備を一丸となって取り組み、次なる一歩へ向けて覚悟を持って活動して参ります。

結束力を高め、強い組織となるために

青年会議所では、失敗の経験ができるというような話を耳にすることがあります。もちろん人生においても失敗から学ぶことのほうが多いでしょう。しかし、それは失敗するから学べるのではなく、自らが創りあげた想いに真剣に向き合い、果敢に挑戦する中で自身に誇れるだけの行動をするからこそ学べるのだと考えます。そして、そこには同じ空間、時間を過ごす仲間がいます。だからこそ、一人ひとりに固有の価値観や考え方、捉え方があり、自らのおかれている環境が様々であっても、自らのことだけをこなすのではなく、一度きりの人生、青年会議所という舞台で自らを高め、生涯を共にするだけの関係を築くことが出来る仲間達と活動して参りましょう。

一方で、近年の青年会議所は会員数の減少が著しく、中津川青年会議所もこの問題に直面

し、運動発信をする力は衰退の一途を辿っているといっても過言ではありません。今後も市民やまちに影響を与え、そして自らの成長のために運動を行っていくためには、会員拡大は急務です。我々は異業種が集う組織として、このまちに住み暮らす青年世代と多くの交流を通して繋がりを持ち、次代のJAYCEEを生み出して参ります。

一人でも多くの仲間達と結束力を高め、中津川青年会議所がより強固な組織となることが、次代へ市民やまちに誇れる団体へと発展すると信じます。

おわりに

人は誰かのため、何かのために行動してこそ自分の能力以上の力を発揮できます。それは自分一人が走る徒競走より、仲間のために走るリレー競技の方がいつも以上に力が入る感覚に近いと考えます。仲間のことを想う気持ちが自分を動かし、大きな力になっているのです。青年会議所の活動においても同じことが言えるのではないのでしょうか。まちのため、市民のため、仲間のためだからこそいつも以上の力を発揮することができるのです。そして、いつも以上の力を発揮することで自分の限界を打ち破り、さらなる自己成長を遂げることができると考えます。自己成長を次代に繋げ、多くの場面で活躍することがまちの発展に繋がると信じて。

<運営方針>

- ・ JAYCEEとして責任ある行動
- ・ 結束力ある委員会運営
- ・ 意思伝達の活発なLOM運営

<運動方針>

- ・ 広域的な視野を取り込むまちづくり運動
- ・ 「可能性」を高める青少年育成
- ・ 郷土愛育む「おいでん祭」の推進
- ・ 誰かのために行動できるJAYCEEの育成